

ボッチャ甲子園 リベンジへ

福知山・中丹支援学校高等部の3人



全国ボッチャ選抜甲子園に向けて練習に励む生徒たち
(福知山市私市・府立中丹支援学校)

府立中丹支援学校高等部(福知山市私市)の生徒3人が、今夏の全国ボッチャ選抜甲子園(日本ボッチャ協会主催)に向け、練習に励んでいる。外部の指導者を招いて練習会を開き「予選敗退した前回のリベンジをしたい」と腕を磨く。

前回予選敗退 指導者招き練習励む

ボッチャはパラリンピックの正式種目で、コート上の目標球を狙ってボールを投げ合い、どれだけ近づけられるかを競う。誰でも楽しめるスポーツ。同校は昨年、同甲子園に初挑戦した。今年4月には、より本格的に各種競技に取り組

もうとプラススポーツ部を創部。ボッチャチームで高等部3年の片山鈴人さん(19)、和田宗馬さん(17)、真下恋羽さん(18)は日々、練習を重ねている。

レベルアップを目指し、今月4日にはトヨタカローラ京都(京都市中京区)で障がい者スポーツ指導員を務める田中孝洋さん(47)らを講師に招いた。試合の状況に応じて重さの違うボールを使い分ける工夫、車いすや手の向きを意識して真つすぐ投げるコツを教わった。3人は助言の内容を確かめながら、繰り返しボールを投げた。

予選は、事前にチームが課題に挑む様子を撮影した動画で判定される。車いすでプレーする真下さんは「体を前に倒したら、狙って投げやすくなった。今年こそ東京の決勝大会に行きたい」と話している。

(松見圭祐)